

今治明德
短期大学

歩き遍路体験学習レポ②

生活福祉学科 一年

上田 怜史

遍路実習が終わって十
日ほど経ち、右足の痛み
もだいぶ薄れてきた。い
ま振り返っ
てみると、
この実習は
新しい発見
の連続で
あったと思
う。

股関節を痛め、ペースに
ついて行けなくなったの
で「今回は大丈夫だろう

よく考えてみたら、し
ばらく水を飲んでいな
かったという体験であ
る。介護の授業では「脱
水症状は命取り」と何度
も言われていたのに、自
分がそうなのは面目丸
つぶれ。
歩く中で見つけたもの
も多い。土佐の荒波を、
さまざまな形で感じるこ
とができた。「日本一」
の看板つきのまるで崖の
ような頑丈な護岸と、見
たことも無いような数の
波消ブロック、まるで銀
行の金庫のように分厚い
防潮扉。お接待を受けて
いる間に、ちよつと見に
行つた砂浜の雄大さは、
瀬戸内はもちろん沖繩で
もお目にかかれないほど
のものだった。また、ほ
とんど山の中としか思わ
れないところにあった

新しい発見の連続だった

まず、自
分自身がこ
れだけの距
離を「歩く
能力を実証
できたこと
が一つ。五
月の実習で
は二日間で

か」と不安だった。
足慣らしに一日一時間
歩くことを日課にしたお
かげか、そちらの問題が
出なかつたのは一つの成
果だと思う。

もう一つ印象に残つた
のは脱水症状の体験であ
る。二日目の途中で気分
が悪くなり、吐き気に襲
われ食中毒の心配もした
が、麦茶を飲んで体を冷
やしたらすぐ治まった。

現代の技術の入つた道
だけでなく、江戸時代か
ら続くような道を歩けた
こともいい体験だった。
こんな小さな道が当時は
立派な街道だったとい
う。昔の人にとって「旅」
がどれほど覚悟のいるも
のだったか、それでも江
戸期には遍路が一般化し
ていったということへの
感慨も一層大きくなつ
た。



全員無事に37番岩本寺到着

体験学習講義終わる

明徳短大
歩き遍路 一般市民も多数参加

今治明徳短大地域文化
論「歩き遍路体験学習」
の十六年度講義が終了し
た。平成十三年度からは
じまった体験学習は岩屋
寺、前神寺、十四年度は

霊山寺、平等寺、十五年
度は平等寺、神峯寺、そ
して十六年度は神峯寺、
岩本寺を歩き、前後に行
われた講義は一部公開講
座にしたため一般市民も
多数参加した。



十一月二十五日の講師
は喜代吉榮徳東田大師堂
庵主、顔写真。喜代吉
講師は古文書研究中に
「願主真稔」の石碑を掘



り当てたことが切っ掛け
になり遍路研究をはじめ
め、数々の研究成果を発
表するなど第一人者とし
ての評価は高い。この日
は遍路石の拓本を示しな
がら中司(務) 茂兵衛の
生涯を興味深く話した。

十二月九日は最終回。
講師はハンブルグ大学日
本言語文化学科在籍で、

現在、福井大学の研究生
として来日中のマール
ン・エーラスさん、顔写
真。プロジェクトで
古文書を紹介しながら、
流暢な語りで「江戸と明
治の乞食遍路」をテーマ
に講義した。

明徳短大では、人気講
座として定着した「地域
文化論・歩き遍路」をさ
らにパワーアップさせよ
うと、来年度講師陣など
についても検討してい
る。遍路の区間は岩本寺
から延光寺もしくは観自
在寺の予定。

自分の足で歩く、「車
窓から見送るだけ」でな
い旅への憧れから参加
した今回の実習だった
が、期待以上のものを得
られ、たいへん有意義で
あったと思う。